

42
Feeling like a small trip

大学生たちの活動に刺激される。

札幌北かるた会

子どもたちに遊びながら地域のことを知ってもらうため「幌北かるた」を制作。ネオロスメンバーが読み手となり、オンラインで小学1年生から3年生の子どもたちと遊んだ。



幌北冬のついでとミニミニ雪まつり

雪遊びで世代を超えた地域交流を深めるイベント。幌北小学校を会場に、幌北連合町内会とネオロスが主催。



▲バン食い競争

▲オリジナルランプで「神経衰弱」

▲シールなどで装飾した紙コップキャンドルを作成



北海道大学の学生を中心に組織された「学生と地域で考えるまちづくり会」、通称NeoLos(ネオロス)幌北。2007年に地元町内会、小学校などと連携し、学生の視点から地域のまちづくりに新しい活力を還元していこうと設立され、15年目を迎えた。代表を務める石川昇龍さん(北大工学部3年)によると、現在のメンバーは北大、藤女子大、札幌医大、天使大学、北海学園大の学生たち46人。「小学生や高齢者、大学院生や一回り年上の社会人など、いろいろな世代の方と関わるのが好きで、何かしら社会貢献がしたいという志を持った仲間が集っています」と言う。最近の活動は、幌北かるたの作成、幌北小学校前の道路沿いの花壇への水やり、防犯カレンダーの作成など。自分たちで企画を考えて、それを実行する過程自体が楽しいと笑顔を見せる。何かに行き詰まった際には、町内会や幌北まちづくりセンターの職員に直接相談するそう。月1回以上、オンラインなどで、町内会、小学校・児童会館の職員などと互いの活動内容への提案や情報共有なども行っている。NeoLosとは、地域に「根を下ろす」という意味から。これからも、地域に根ざした面白い活動をかたちにしていきたいと話した。



幌北地区には多くの大学生が住んでおり、札幌市内でも平均年齢が一番若い地域。前会長がきっかけを作りネオロスが結成されてから、それまでは無かった学生たちとの交流が生まれ、町内会活動の大きな力となり、良い刺激を与えてくれる存在になっています。これからも共に地域に活力を生んでいきたいと思います。

幌北連合町内会会長 小田島 義雄さん

夏の夜にきらめく、学生たちの力が灯るあんどん。

札幌北高等学校 あんどん行列

毎年7月、力作ぞろいのあんどんが練り歩く「北高祭」。青森ねぶたのような人形型のあんどんを1クラス1基、約1ヶ月で製作し、学校周辺を大きな光の行列となって輝かせる伝統行事。地域の夏を盛り上げる、見応え抜群の風物詩だ。



43
Feeling like a small trip

高校生たちのエンタメに魅せられる。



ダンプレ(Dancing & Playing)で元氣と笑顔も贈る。

SIT Band - 札幌国際情報高校吹奏楽部

演奏とダンスを組み合わせた「ダンス&プレイ」で観客を魅了する、全国区で知られる札幌国際情報高校吹奏楽部。定期演奏会、高文連での公演に加え、ライブへのゲスト参加や自主ライブ、さらにはリモートライブも開催。パワフルかつハッピーなライブでたくさんの観客に元氣と笑顔を贈っている。